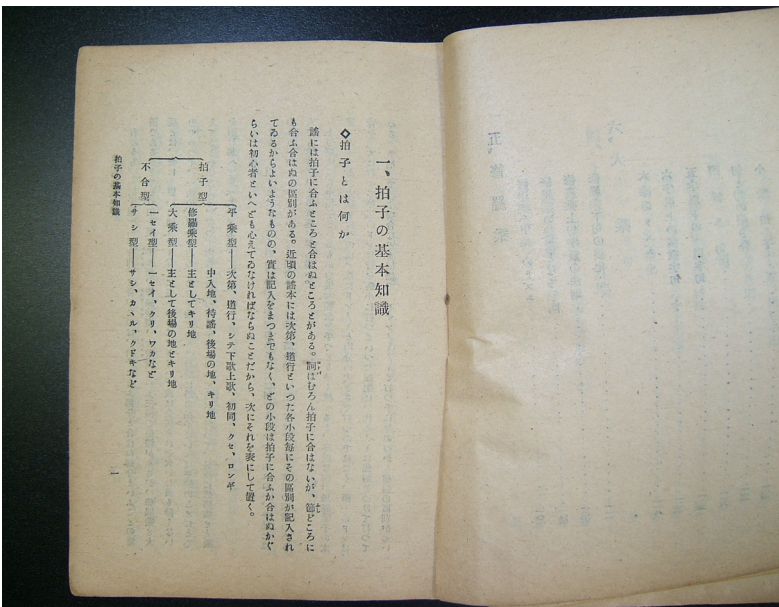


三宅 穂一 『謡の拍子 ―法則と運用―』

「これならば最も要領よく拍子の核心がつかめるだろうと思つて書いた」(序)とあるのに対応して、目次は「拍子の基本知識」「本地上句」「本地下句」「トリ・オクリ・片地」「修羅乗」「大乘」といったって簡潔で、本文も短い。第一章「拍子の基本知識」は拍子の運用に焦点を当てる記述。「ツツケ謡／三地謡」等の用語は、本書をもつて完全に定着したと考えられよう。また、乗る／乗らぬを、はずみがつく／つかないという対比で説明するのはわかりやすく、新しい時代をかざる書物といえる。



標題 内題…

標題紙…謡の拍子 ―法則と運用―

奥附…

その他…謡の拍子(目次・背)、謡の拍子

―法則と運用―(表紙)

著者 奥附…三宅穂一

その他の場所…三宅穂一(標題紙・表紙・

背)

出版 版次…第一版

出版社…東京

出版社…檜書店

出版年…昭和22(1947)

その他の場所…序 昭和22(1947)

形態 冊数…一冊 頁数…一四五頁

寸法…18×13(cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考